

I 単元名 「めあてにむかって トン・クルリン」 跳び箱運動（器械運動）

II 単元について

1 教材について

○ 子どもたちは、運動時間になると校庭へ飛び出し、鬼ごっこやボール遊び、遊具遊びなど、様々な運動遊びを友達と一緒に力いっぱい行っている。体格的にも体力的にも順調な伸びを示しており、それに伴い運動に対する興味や関心も高まってきている。また、組織的・集団的な運動にも興味を示し、集団の中で力に合った役割を決めたりリーダーを選出したりして、みんなで協力して活動することができるようになってきている。一方で、運動の量や質、体格や体力面での個人差が大きく、運動に対する興味・関心も様々である。

このような時期の特性から、一人一人の子どもが技の達成を目指して運動したり、互いに協力し合いながら取り組んだりしていくことのできるこの単元は、身体活動の欲求を満ち意欲的な学習を促す上で大いに意義のあるものと考えられる。

本単元では、子ども一人一人が技の達成を目指して運動する中で、友達と互いの動きや活動方法を認め合ったり、時には指摘し合ったりしながら、動きを高めていってほしいと考えている。

○ 「器械運動」は、マットや鉄棒、跳び箱などの器械・器具を使って技に挑戦し、その達成の楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。器械運動における技は非日常的な動きが多く、動きそのものを経験することを楽しみがある。簡単には技の習得ができないことが多いが、努力して技ができるようになったときの喜びも大きく、それが楽しさにもつながってくる。自分の思うように技ができたときなどに感じる満足感や達成感を味わうことも器械運動の楽しさの一つである。本単元では「跳び箱運動」を取り上げる。

○ 「跳び箱運動」は、様々な高さや向きの跳び箱を、得意な跳び方で跳び越したり、自分の力に合った技を選んで挑戦したりできるところに楽しさがある運動である。また、「できる」「できない」が他の運動に比べてはっきりした運動であるが、非日常的な動きを味わいながらいろいろな技に挑戦することができ、上達する喜びを味わうことのできる運動である。

○ 本単元では、台上前転を中心に取り組み、台上前転がうまくできるようになるための動きのポイントをみんなで見つけようという目的意識をもたせながら運動に取り組ませていく。単元を通して、準備運動に基礎感覚づくりの運動を位置付け、台上前転を行う際に必要な腕支持感覚や回転感覚などを身に付けさせていきたい。また、課題解決を図る際にはグループでの学習を取り入れ、互いの動きを見合い、アドバイスをしたり、よい動きをまねしたりしながら取り組むことができるようにしたい。その中で、友達とかわり合いながら運動するよさを感じさせながら、動きを高めていく喜びを味わわせていきたい。

2 子どもの実態と単元を進めるにあたって

(1) 子どもの実態

<p>情意面</p>	<p>跳び箱運動が好きな子どもは35人、嫌いな子どもは2人と、跳び箱運動に対する意欲は高い。「跳び箱を跳ぶのが気持ちがいい。」や「いろいろな跳び方に挑戦できることが楽しい」、「技ができるようになったときにうれしい」などが、好きな理由の主なものである。一方で、「うまく跳び越すことができないこと」や「けがをしそうでこわいこと」など技能の未熟さや恐怖心などから抵抗感を強くもっている子どもも見られる。 (事前のアンケートから)</p>
<p>認知面</p>	<p>子どもたちは昨年度も跳び箱運動の学習に取り組んでおり、主に切り返し系の技である開脚跳びやかかえこみ跳びについて学習してきている。また台上前転についても経験してきている。子どもたちは、技の達成を目指して学習を進める過程で、徐々に活動の仕方を工夫したり、友達と学び合いながら学習したりするという姿も見につけていく。また、運動のポイントについて明らかにしようとしていく中で、どのように動いたらよいかなど動きを見る目も養われていく。しかし、動き方の理解にとどまり、実際にできるまでに至らない子どもも見られる。</p>
<p>技能面</p>	<p>開脚跳びについては、ほとんどの子どもができるが、またぎ越しの段階の子どももいる。かかえ込み跳びや台上前転については、挑戦意欲もあり、うまく跳び越したり回転したりすることができる子どもも多い。しかし、跳び箱上に足を着いてから跳び越したり、頭頂部をついて回転しようとしたりする子どもが見られる。また、台上で前転をすることへの恐怖心がある子どももいる。個々の体力的な違いや運動経験の違いなどからも、技能の個人差は大きい。</p>

(2) 単元を進めるにあたって

上記の実態から、単元を進めるにあたって、以下のことについて配慮していきたい。

- アンケート調査を行い、子どもたちの実態を把握することで、単元構想に生かすとともに、個に応じた支援に役立てる。
- 単元を通して、台上前転がうまくできるようになるための運動のポイントをみんなで見つけていくという目的意識をもたせながら運動に取り組ませる。
- 単元を通して、準備運動に台上前転の基礎となる感覚を養う動きづくりを位置付けるようにする。
- 課題解決を図る際は男女異質グループを取り入れ、活動方法や動きについて友達同士で相互に評価し合わせることで、認め合ったり指摘し合ったりしながら、課題の達成に向かって活動していくことができるようにする。
- 台上前転のスマールステップがわかる学習カードを用意し、練習や場の工夫を行う際の参考とさせる。

Ⅲ 目標

技能	○ 跳び箱運動の楽しさや喜びに触れ、台上前転が安定してできるとともに、その発展技に取り組むことができる。
態度	○ 跳び箱運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができる。
思考判断	○ 自分の力に応じたためあてをもち、技ができるようにするための練習方法や練習の場を選ぶことができる。

Ⅳ 単元の評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・跳び箱運動に進んで取り組もうとしている。 ・きまりを守り、友達と励まし合って運動しようとしている。 ・用具の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。 ・運動する場や器械・器具、試技の開始前の安全を確かめようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技の練習の仕方を知り自分の力に応じた練習方法や練習の場を選んでいる。 ・基本的な技の動き方や技のポイントを知り、自分の力に合った課題を選んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・切り返し系や回転系の基本的な支持跳び越し技ができる。
学習活動における 具体的評価規準	○ 運動する場の危険物を取り除いたり、器械・器具や試技の開始前の安全を確かめたりしようとしている。	○ 台上前転のポイントが分かり、自分の力に応じて、友達や教師からの声かけ、学習情報を活用しながら練習している。	○ 両足での踏み切りや、力強い腕支持での回転、安定した着地に気を付けながら、安定した動作での台上前転ができる。

Ⅴ 指導と評価の計画

時間	主なねらい・学習活動	学習活動における具体的評価規準（評価方法）		
		関心・意欲・態度	思考・判断	技能
1	1 オリエンテーション 学習の進め方を知り、 学習の見通しをもつ。 ・準備運動の仕方を知る。 ・場作りの仕方を知る。 2 試しの運動 3 振り返り・片付け ・学習カードの活用の仕方を確かめる。		<ul style="list-style-type: none"> ・学習の進め方や、基礎感覚づくりの行い方を（A:正しく）理解している。 （観察）	

2	1 用具や場の準備, 挨拶	・ (A : 進んで) きまりを守り, 友達と励まし合って運動しようとする。 (観察)	・ 台上前転の動きのポイントについて考えている。 (観察, 発言, カード)	
3	2 準備運動 ・ 基礎感覚づくりの運動を行う。 3 跳び箱運動 台上前転に挑戦して楽しもう。		・ 自分の力に応じた練習方法や練習の場を (A : 進んで) 選んで, 課題を解決しようとしている。 (観察, 発言, カード)	
4 (本 時)	・ 動きのポイントについて考える。 ・ グループごとに台上前転に取り組む。			・ 運動のポイントに気を付けて台上前転を (A : 安定した動作で) 行うことができる。 (観察)
5	4 整理運動 5 振り返り 6 挨拶・片付け	・ (A : 進んで) きまりを守り, 友達と励まし合って運動しようとする。 (観察)	・ (A : 友達の動きや資料をもとに) 動きのポイントを考えて, 学習に取り組んでいる。 (観察, 発言, カード)	
6				・ 台上前転を (A : 安定した動作で) 行うことができるとともに, 発展技に取り組むことができる。 (観察)
努力を要する状況の子どもへの支援		・ 自分の力に合った場での動きを認め, 繰り返し取り組ませながらよさを称揚するように努め, 意欲を高めるようにする。	・ 教師や友達からのアドバイスをもとに考えさせながら練習に取り組ませる。	・ 自分の力に合った場で技を繰り返し行わせたり, 教師が積極的に補助したりしながら, 安定した動作で技ができるようにする。

VI 本時の展開 (4/6時間)

1 教材と子ども

本時は、台上前転を中心に組み込んで3時間目にあたる時間である。前時までにも子どもたちは、グループで課題解決を図りながら、気付いた台上前転の動きのポイントについて明らかにしてきている。その中で、子どもたちは台上前転のおおまかな動きのイメージをもつことができるようになってきている。しかし、回転中にぐらつくなど、安定して台上前転ができない子どもも見られる。そこで本時は、より安定した動作で台上前転ができるようになるために、腰を高く上げて回転するための動きのポイントを考えながら運動に取り組ませていきたい。そのために、以下に示す具体的な手立てを講じながら、指導にあたりたい。

- ① 台上前転に必要な基礎感覚や基礎技能を養う動きづくりを繰り返し行う。
- ② 台上前転の運動のポイントについて明らかにする場を位置付ける。
- ③ 男女混合異質グループでの課題解決を図る場を取り入れる。
- ④ 学習カードによる振り返りの蓄積

始めの段階では、台上前転に必要な基礎感覚や基礎技能を身に付けさせるための動きづくりに取り組ませる。音楽を用いてローテーションさせながら単元を通して繰り返し取り組ませることで、基礎感覚や基礎技能を培うことができるようにしていきたい。

台上前転に取り組む段階では、安定した動作で台上前転ができている子どもの動きを観察させることで、腰を高く上げながら回転していることを運動のポイントとして明らかにする場を設ける。その後、各グループで課題解決を図るようにさせ、腰を高く上げて回転するためにはどうすればよいか同じ場で練習する友達同士でアドバイスし合いながら、よりよい動きに気付かせるとともに身に付けられるようにしていきたい。

まとめの段階では、グループで見つけたよりよい動きについて発表し合い、学びの共有化を図るようにする。また自己の高まりや友達とのかかわりのよさについて振り返らせ、よりよい学び方や次時への意欲としてつなげていきたい。

2 ねらい

- 腰を高く上げた回転の仕方に気を付けて、台上前転を行うことができる。(技能)

3 展開

学 習 活 動	時間	指導上の留意点 ◎研究にかかわる手だて ◇評価規準	用具・資料
1 学習内容の確認 学習内容や全体のめあてについて話を聞く。	1分	○ 事前に健康観察や服装点検、用具や場所の安全確認をしておく。 ○ 本時の学習の進め方やめあてを確認し、学習への意欲を高める。	移動黒板 学習カード
2 準備運動 跳び箱運動の基礎感覚を養う運動に取り組む。	10分	○ 特に本時に必要な手首や足首、首の運動をしっかり行うようにさせる。 ◎ 「腕支持」や「回転感覚」、「体重移動感覚」などの台上運動に必要な基礎感覚を養う運動を、音楽を用いてローテーションさせながら楽しく行わせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・うさぎ跳び (逆さ・腕支持感覚) ・かえるの足打ち (逆さ・腕支持感覚) ・前転 (逆さ・回転感覚) ・高さのある前転 (逆さ・回転感覚) ・とび前転 (体の投げ出し・腕支持・回転感覚) ・安全マット上での前転 (体の投げ出し・腕支持・回転感覚) ・ステージ上への跳び上がり・前転 (腰の引き上げ) ・ステージ上からの前回り下り (着地動作) </div>	跳び箱 踏み切り板 マット 安全マット 机 CD ラジカセ
3 跳び箱運動 (1) 場の準備をする (2) 台上前転 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>台上前転に挑戦して楽しもう。</p> </div>	3分	○ 種目ごとに正しい動きができるように、動きのポイントを意識させながら取り組むようにさせる。 ○ 自分なりの課題意識をもたせながら十分に活動させる。 ○ 事前に分担しておき、協力して素早く準備できるようにさせる。 ◎ 前時までの様子や、振り返りから得られた課題をもとに、よりよい動きにつなげていくにはどのような動きのポイントに気を付けていけばよいか明らかにさせる。	

<p>○ 動きのポイントについて考える。</p>	8分	<p>◎ 友達の動きを見ながら、気付いた動きのよさを発表させることで、動きのポイントについておさえていく。また、よりよい動きのイメージをもたせるようにする。</p> <p>◎ 友達の動きを見る際には、焦点化してよい動きに気付くことができるようにしていく。本時では、「腰を高く上げての回転」を運動のポイントとして取り上げる。</p> <p>◎ 明らかにした運動のポイントができるようになるには、何に気をつけて練習すればよいか実際に試す場を設け、グループごとに考えさせる。</p>	
<p>○ グループ毎に台上前転に取り組む。</p>	14分	<p>◎ 課題解決を図る際には、男女異質グループで行わせ、運動のポイントを視点としながら互いの動きについてアドバイスし合い、よりよい動きを身に付けられるようにする。</p> <p>◎ 友達の動きの状況に応じて、場の設定を変えながら、運動に取り組むことができるよう促す。</p> <p>○ 工夫した場でも、動きの高まりを積極的に認めていく。</p> <p>○ 学び合いがうまくできていないときは、台上前転が上手に行うことができている子どもの動きを見せながら技のポイントを再度確かめるようにさせる。</p> <p>○ 学び合いを意識するあまり運動量が著しく偏らないように配慮する。</p> <p>○ どうしたらいいか迷っている子どもには、学習カードや友達の動きを参考にするように促す。</p> <p>○ 子どもの主体的な活動を認め励ますことで、自信をもって活動に取り組むことができるようにする。</p> <p>◇ 腰を高く上げた回転の仕方に気を付けて、台上前転を（A：安定した動作で）行うことができる。 （観察）</p>	
<p>4 整理運動</p>	3分	<p>○ 体をほぐすように大きくゆっくり行うようにさせる。</p>	
<p>5 学習のまとめ</p>	6分	<p>◎ 学習で楽しかったこと、学び方、技能の高まりの3つの観点に沿って本時の学習を振り返らせる。</p> <p>◎ グループで見つけた動きのよさについて紹介し合い、学びの共有化を図る。</p> <p>○ 努力の様子が見られた子どもやグループを紹介しながら、動きの高まりを具体的に称揚するとともに、学習の仕方についてもよい姿を称揚し、次時以降への意欲をもたせる</p>	学習カード 筆記用具
<p>6 挨拶・後始末</p>		<p>○ 安全に留意させながら協力して行わせる。</p> <p>○ 汗の始末や手洗い・うがいをするように指示する。</p>	

< 場の設定について >

○ 基礎感覚づくりおよび台上前転の場

